

井原山 オオキツネノカミソリ大群生

7/23 大宰府竈門神社登山口から霊峰宝満山に登りました。百段ガンギと呼ばれる歴史の石段の道を登って山頂へ。宮島弥山に匹敵する巨岩が多くあり、間を縫うように高みへ。尾根を直登してしまい、クライミングを強いられる。下からはハイキング道があり、バリエーションを登ったことに気付く。山頂は竈門神社上宮（コンクリート製の建物）があり、巨岩がご神体。山頂直下にはキャンプ場（無料）があり、管理棟に宿泊も可（¥500）。標高差があり、白木山を登るくらいの心つもりが必要です。



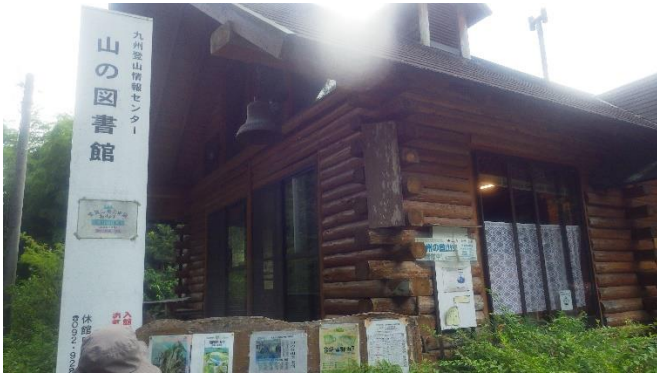
竈門神社



百段ガンギの石段



山頂の巨岩（ご神体）



登山口に有る山の図書館

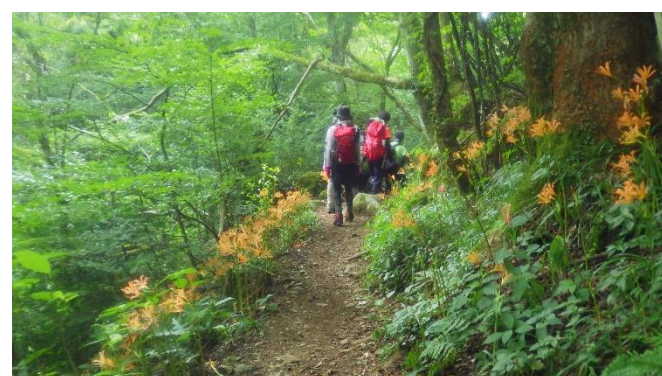
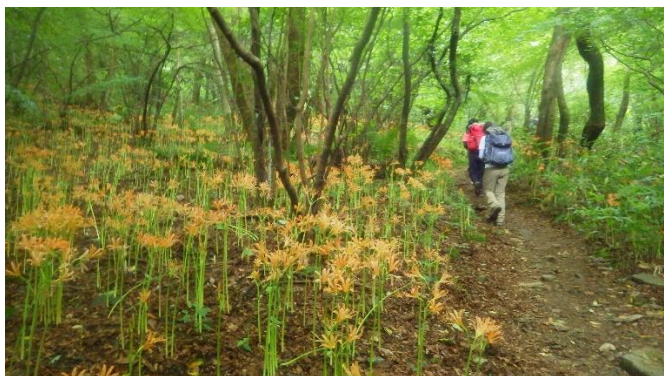
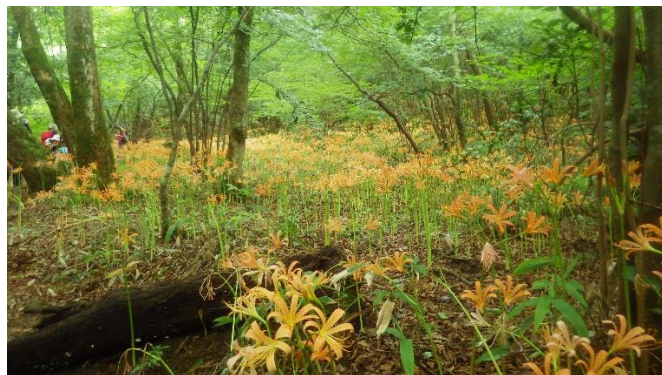
入館無料だったので、入ると管理者重藤氏は NHK 記者の取材を受けている最中だった。福岡県連《県連通信》が展示されていたので、自己紹介をする。そこから若い NHK 記者を混えて、井原山オオキツネノカミソリ群生や野河内溪谷の状況が話題に。館内は古い資料が満載。話題は若い頃の登山装備などに拡大・・・重藤氏は同世代だったので。記者は興味を示した。ついでに阿蘇高岳鷲ヶ峰で亡くなった山下きよしさんの事を聞くと、《ここにもよく来ましたよ》という。彼の人柄を良く知っていて、話は盛り上がりました。出会いはドラマティックです。

7/24 野河内溪谷から井原山へ。野河内溪谷を詰めれば上部の登山口に行けると思い遊歩道を行く。ところが川を飛び越えるあたりから道は怪しくなり、沢登りの様相に。滝の高巻きはロープが設置されていて崖登り。登りきると踏み跡は消滅。ハイキング者は多く入っているのに全く出会わない。仕方なく戻ること。同じようにここは初めての3名が登ってくる。情報交換。彼等は、沢から林道に直登すると言って沢の奥へ進む。

登山口から林道を1時間歩く。(途中でハイキンググループを追い越す。)先方に沢を直登した3名に追いつく。大変な数の急坂を攀じ登ったとのこと。衣服が藪で汚れていた。水無登山口はマイカーで一杯だった。かなりの人が入っているようだ。桜の花見を思わせる。登山口からオオキツネノカミソリが咲いている。ここから驚きと想像を超える感動の連続。



水無登山口(トイレあり)野河内登山口からは、崩壊した林道歩きが1時間ある。雷山川方面から舗装された林道があり、此处まで入れる。花のシーズン、駐車場は満杯になる。十名以上のグループも数組あり、何処から湧いて出たのかと思わせる賑わいぶりだ。歩き始めて、花を見てはカメラを構えていると《こゝらで止まっていたは先に進めないよ》と声を掛けられる。天気は下り坂で、少し青空は有るものの怪しい雲行きだ。先を急ぎたいがキツネノカミソリの花が美しい!どうしてもカメラを構えてしまう。林床の薄暗い急斜面の奥まで群生が続く。人が居なければ幻想的な世界が広がる。写真はオート設定なのでずいぶん明るく撮れてしまう。実際はもっと幽玄である。



14℃の風が噴き出る水無鍾乳洞

圧巻のオオキツネノカミソリ群生を見て、大満足。天気が怪しくなり時折小粒の雨が顔にあたるようになったので、井原山登頂は断念して帰路につきました。 安佐岳友クラブ 大藤